

# 東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東 1-4-20-102

2013年12月 (No.6)

TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

## 今月の聖句

「貧しい人は幸いである、神の国はあなたがたのものである。  
今うえている人々は、さいわいである。あなたがたは満たされる。  
今泣いている人は、幸いである。あなた方は笑うようになる。」

ルカによる福音書6章20—21節

## 主題

国際会長	Poul V. Thomsen	「全ての世界に出て行こう」
アジア地区会長	岡野 泰和	「未来を始めよう、今すぐに」
東日本区理事	渡辺 喜代美	「いざ立て」
あずさ部長	藤江 紀美子	「心を一つに あずさ部号前進」
武蔵野多摩会長	伊佐 節子	「健康第一！ちょっとだけ無理して頑張ろう！」

## ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさたろう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

## ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

## 10月出席率

在籍者11名 出席者10名 メネット2名 メイキャップ0 ゲスト3名 出席率 90%

## 半・半の法則

松田 啓

最近、高校時代に聞いた先生の言葉をしきりに思い出す。「世界の人口の半分以上が間違いになったら、正常が間違いで間違いの方が正常になる」価値観やもの善悪は半数以上の同感で決まるということだろうか。

最近すっかりしない事。有名で高級で豪華なレストランのメニューが内容と違うとたたかれ、責任者は首を並べて謝罪

謝罪。いったい誰に向かってどんな気持ちで頭を下げているのだろうか。客は雰囲気・気分・同伴者・味のすべてで満たされA級グルメ感到満足している、一枚のメニューによってだけではない。えびが違うと誰も文句は言っていない。では本を書けるほどの通に向かってか、内部告発者にだろうか、自分の良心にか。製造なんとか法導入で、製品の欠点を公開しておかないと賠償問題になるからだろうか。戦後、車産業に火がついたころ、交通事故を起こした当事者は絶対謝るな、謝れば不利になると全国に行き渡り、それ以来ごめんなさいが世の中から激減。多数側だけに依る文字化した縛りだけがすべての解決方だったら、人同士が同じ土俵上で面つき合わせてする共通項探しや分かち合いが無くなってしまう。

## \* 11月武蔵野多摩クラブ例会のようす\*

日時 11月13日(水曜) 19時 場所 西東京センター  
司会 石丸ワウズ 聖書・祈祷 小坂メネット 受付 山本・宮内の各ワイズ  
ゲストスピーカー 就労支援団体マザーハウス 五十嵐 弘志氏

### 「人生は出会いで決まる」

私は約20年間、刑務所におりました。前科三犯の元受刑者です。前科二犯のとき、ある事件を起こし、また警察に逮捕され、被疑者として留置場に入れられました。その事件のことで、警察の言い分に納得できないところがあったので、犯行の意思を否認していました。すると担当刑事が、それまで約20年以上音信不通だった母親とその母と妹を警察に呼び出し、そして私のそれまでの数々の悪事を暴露してしまったのです。母と妹が驚きと悲しみで泣いていたと留置場の署員から聞いたとき、私は刑事に対して怒りを感じました。そして、私は家族に知られてしまった恥ずかしさのあまり目の前が真っ暗になって死んでしまいたいと思いました。留置場で職員の交代のときを見計らって自殺を考えたけれど、いざ実行しようとするところこわいんです。そして死ぬこともできない自分はなんて情けない人間なんだ、悶々としていました。

そして、起訴され裁判が始まるので、警察署から拘置所の方に移管することになりました。そのときにやたら聖書を読みたくなり、拘置所の職員に頼んで、聖書を貸してもらいました。読み始めたら止まらなくなりました。わからないところがあっても毎日読みました。ある日、今までも読んでいたはずの使徒言行録9:4を読んだとき、「サウル、サウル、なぜ私を迫害するのか？」という箇所が目にとまり、突然それが、

「弘志、弘志、なぜ私に罪を犯すのか？」

というキリストの声に聞こえたのです。とても恐ろしくなり震えが止まらなくなり、涙がぼろぼろ出てきました。そのとき、生まれて初めて心から神さまに「ごめんなさい」と祈りました。そして自分の犯した罪について、思いつく一つひとつを神さまに告白しながら書き留めました。それはなんと便箋三枚にもなりました。いかに自分が数々の罪を犯してきたかに気づき、自分がとんでもない極悪人だと愕然とし、ますます泣いてしまいました。

受刑者たちの多くは、心の頑なな人たちで、愛に飢えています。本当は寂しいのになかなか素直になれないのです。受刑者の多くの方々がかって虐待を受けています。やがて自分も暴力をふるい、相手を傷つけて刑務所に入ってきます。彼らだけが悪いとは言いきれない悪の連鎖があることを目の当たりにしました。

刑務所の中では、刑務作業をすると共に、ボランティアで介護という仕事もしました。身体障害者、高齢者 認知症の方の世話です。78歳のおじいさんが「俺たちは、刑務所にいた方がいいんだ」と言いました。私より先に出所する方でした。私が「そんなこと言わないで。実家にだれかいるんだろ？」と聞くと、「いるけど、ずっと会っていない。前科があって会いに行けない。社会に出て誰も相手にしてくれない。仕事もない。でもここなら刑務官がいる。友達もいる。あんたみたいに親切に介護してくれる人もいる。孤独がどれほどつらいものかわかるか？」と。何も言えませんでした。生き地獄を見た思いです。そのときに、自分はこういう人が社会でいられる場所を作りたいと思いました。これが今、私がし

ようとしていることを促した最初の出来事です。その頃読んだマザー・テレサの「日本にもカルカッタのスラムがある」という言葉が身に染みました。日本の中の一番の闇があるところは刑務所だと思ったのです。多くの受刑者は獄中でもっと傷つき、もっと悪くなって、出所後もまた罪を犯してしまいます。私がおのれ例でした。日本の犯罪者の再犯率はとても高く60%と聞きます。特に高齢の受刑者は出所後、2年から5年でほとんどの方が刑務所に戻ってくるのです。先日刑務所から出てきた人が二人を殺した事件がありました。もし彼に一人でも話し相手、心の内を話せる人がいたら結果は違っていたかもしれません。

刑務所の矯正教育のあり方は完全に崩壊しているのではないかと思います。受刑者が受ける教育には、覚せい剤についての教育、被害者教育、被害者感情教育など、さまざまな教育がありますが刑務所側が人材も含めてすべて決めるのです。強制ですから受けなかったら懲罰の対象です。当然仕方なく受けます。でもそれでは変わりません。受刑者の中には真面目で勉強熱心な人も多くいます。なぜ更生が重視されていないのか不満が募りました。受刑者たちは自分の心の中にあるものを吐き出すことが出来ません。たとえば一日の出来事でもなんでもいいから吐き出すこと、あるいはそれまでの過去を吐き出す機会も場所もありません。心まで押しつぶされているのです。彼らは「どっちみち言たって誰も聞いてくれない」と自暴自棄になっています。だからこそ誰かが不満を聞くだけでもいい。そういうケアが必要だと思います。

自分の体験でいうと、申し訳ないけれど、そこでの教育で更生したというより、たまたま出会ったキリスト者、そして文通や聖書のみ言葉との出会いによっての方がより大切なことを学んだと思います。やはり人生は出逢いで決まるんです。人と出逢うことによって、私は人の背後にいるイエスに出逢ったのです。心も魂も打ち砕かれたそのときに、根っ子の部分での神さまとの出逢いがあったのかと思います。

マザーハウスは、「聖書とマザー・テレサの精神に基づき、神さまの愛を実践し、一人ひとりを大切にし、心と心の触れ合いをし、真剣に相手を向き合い、理解者となれるよう努力しながら、刑務所などの矯正施設にいる人々の更生の支援、社会復帰の支援、いじめ、虐待、自殺などの問題の相談と取り組みを目指し、実の兄弟姉妹のような絆を築いていく」ことです。そして、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」というイエスさまの言葉を実践できるよう努力していきたいと思います。皆さんにお願いがあります。受刑者や出所者の現状を知って欲しいです。まずその存在を知り、祈ってあげることが大切です。孤独のとき、自分だったらどうなんだろうかと自分に置き換えて考えてみてください。何かをするということより彼らの声を聞くこと。簡単にできることは文通です。相手は人間ですからふつうに接すればいいのです。かまえてしまったり、手紙の内容に全部答えようとするは続きません。ただ自分が共鳴することを書けばいいと思います。物の無心について、できないことははっきりと断ることも大切です。絶望の中にキリストがおり、希望の道へと。そして、闇の中に光輝くキリストと是非交わって頂きたいです。必ず彼変ります。愛の人へと・・・。

ダマスコへの道を想起させられる経験をされた氏の卓話。当方、どんなにかんでも薄っぺらな報告になってしまうので、氏自らの執筆をお願いしました。

久々に笠利ワイズがメネット同伴で出席！食道全摘手術、かろうじて声帯は守られた、現在リハビリ中とすっかり闘志の顔。

クラブ全員の「大変でしたね、でもよかったですね、おめでとうございます」で氏をとりかこんだ。

ピンチ最悪の日、グリーンクラブ浅見ワイズからゴルフ打ち合わせの電話、浅見ワイズは同病闘病経験者、早速詳しい闘病方法を伝授、そしてメネットと二人三脚で闘病。現在は半日ではあるが幼稚園の執務についていると語られた。

あんなに好きだった酒が欲しくなったこと、学生時代から愛用の金管楽器がまだ吹けないと残念そう。

大きな働きを感じさせられる、一言一言だった。

## <西東京 YMCA 便り>

鳩山 徹郎

冬の気配を確実に感じる季節になってきました。街にはクリスマスソングが流れ、クリスマスイルミネーションも綺麗に街を彩ります。空気が凍るような寒さも感じますが、それゆえに食べ物の暖かさや人の温もりが嬉しいものですね。体調など崩されませんように、ご自愛くださいませ。

さて YMCA では、秋口に色々なイベントを実施いたしました。今回初めての実施となりました会員の集いについて、少しご報告いたします。

会員の集いは 10/19(土)19 時~21 時に実施いたしました。もっと現在の西東京センターについて知っていただくこと、先人が大切にしてきたことが今も息づいていることを知っていただくことを目的といたしました。当日は、初めてセンターに来たという会員の方を含め、15 名ほどに集まっていただきました。武蔵野や立川で行われていた活動を、写真や会員の方のお話を通して振り返る時間を持ちました。現在活躍しているボランティアリーダーから、活動している中で感じることを聞く時間も持ちました。最後は YMCA らしくキャンプソングを歌いました。何やら世代を超えた大きな繋がりを感じられた一日でした。継続的に年に一回、実施していきたいと思っています。ぜひ応援して下さい。

現在、センターでは年末に控えたシーズンプログラムの準備を行っています。夕方になると毎日のようにリーダーたちが集まってきて、意見交換をし、キャンプに向け気持ちを高めています。安全についても、トレーニングを積みながら万全な準備を行っています。まだ少し空きがございますので、ご興味ある方がいらっしゃいましたらお勧め下さい。今月もお支え、お願いいたします。

### <西東京センター及び東京 YMCA の主な予定>

- 12/1 知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」12 月例会
- 12/7 西東京ファミリークリスマス  
幼児野外活動「にこにこ」12 月例会  
小学生野外活動「ロビンソン」12 月例会
- 12/8 スキーキャンプ打ち合わせ会
- 12/13-16 スキー実技リーダートレーニング
- 12/21.22.23 わんぱくキッズ (冬季日帰りプログラム)
- 12/23 クリスマスオープンハウス (東陽町センターにて実施)
- 12/26-29 キッズスキーキャンプ (冬季スキーキャンプ)
- 12/26-30 シュプール・ユースキャンプ (冬季スキーキャンプ)

### <12 月例会>

12 月は YMCA 西東京センターとの合同クリスマス例会です。

日時 12 月 7 日 13 時 30 分 場所 YMCA 福祉専門学校 (谷保・現場 12 時集合)

12 月 4 日 (水) 18 時 30 分西東京センターでトーンチャイムの練習です。

12 月 20 日 7 時 クラブ忘年会 国立「串焼き 暖」 会費 4 千円 飲み放題 お楽しみに！

1 月新年例会は在京ワイズ合同新年例会です。場所東陽町 YMCA センター (東京メトロ東西線東陽町駅西 2 番出口) 日時 1 月 11 日 13 時 (登録開始 12 時 30 分) 会費 5 千円各自振り込み。振込先は会長からのメール参照。